February 2016
2月号【第220号】
Monthly Kensō Shinbun
研創新聞（けんそうしんぶん）

今の家を仕立て直し、より永く、より快適に

今月号より1面は新スタッフが担当する事になりました。記事の内容は当社のPRがメインになります。不慣れな為、お見苦しい点がありますが今後共よろしくお願いします。（研創新聞スタッフ一同）

住みやすく快適にリノベーション

リノベーションとは、既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値を与えることです。

台所・居間と別れていた2室を1室に改装。広々したLDKに。

吊戸棚を無くすことで、より開放的なキッチンに。

手摺を付けて玄関との段差を通常より低くすることで介護の負担を軽減。

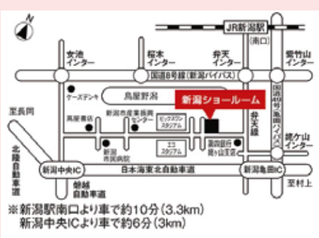
改装と言っても表面的な内装のリフォームだけでは満足感は得られないこともあります。既存の間取りを入念に見直し、効果的に改修することにより、一層の使いやすさ、快適さが得られます。改装前は、断熱材もほとんど入ってなくサッシも1枚ガラスで冬は寒く光熱費も掛かりましたが、断熱材を入れサッシをペアガラスにすることで光熱費も安くなりました。又、動きやすく、広い間取りに変えたことで、より快適に生活できるようになりました。

クリナップ1周年フェア開催 当社も参加します

クリナップ新潟ショールーム1周年フェアが開催されます。水まわり工房の会員として当社も参加しますので是非御来店下さい。

システムキッチン・ユニットバス・洗面化粧台が展示されてますので、実際見て触れて体験して頂くと工事の際に参考になると思います。

日時：3月5日・6日
10時～17時
住所：新潟市中央区長潟305



私たちの顔と心と技の見える家づくり 永く愛され100年住む家

株式会社 研創
KENSO
〒959-2205 新潟県阿賀野市寺社246
TEL0250-68-3212・FAX0250-68-5271
http://www.kenso.info/
E-mail:info@kenso.info

連載 読者にいきる家をつくる会

「あがの家」創生プロジェクト Part9
「家は買うモノ？それとも、建てるモノ？」

数十年前までは家を求める行為を「家を建てる」と言っていたのに、いつの間にか「家を買う」に変わってしまいました。この言葉の変化は、おそらくプレハブ（プレファブリック：事前に工場でつくる）住宅の浸透によるものと思います。この言葉使いを、どちらが良くて、どちらが悪いという論議をする気はありません。只、「建てる・つくる」と「買う」の行為は全く別の次元である事だけは明白です。

人はある行為に対する価値・魅力を感じた時に、その対価として お金を払います。流通商品（自動車・家電・食品・・・家も？）は基本的にモノの価値を認めた時に「買う」という行為を起こします。ところで、プロスポーツや映画・演芸等の興業に高額のお金を払って殺到していますが、何を求めているのでしょうか？これは、「モノ」ではなく「コト」の価値を認めているからです。「喜び」「感動」「楽しい」「嬉しい」「コト」心で感じる精神的な満足感です。当「あがの家」は「買って下さい」とは申しません。「あなたと、一緒になって理想の家を建てましょう。つくりましょう」と呼びかけます。何故ならば？家を只の箱・物質と捉えるのではなく、家が誕生するまでの「コト」の価値を共有したいからです。家に「住まう」コトの価値・魅力を共に考え進化させましょう。

お金を払えば何でも手に入る？果たしてそうだろうか？「心」は？

物質的な豊かさの反動として、「もったいない」を忘れてしまった？

最近の社内の出来事

「研創新聞」今後も継続？それとも？

この「研創新聞」、今回で220号となりました。これまで、テーマや原稿を1人で決めていましたが、2月号より編集部で企画する事にしました。数回の会議の中で、文字で埋め尽くされた一般新聞の様なスタイルで、果たして何人の人が読んでいるだろうか？という疑問が浮かび上がりました。「新聞」と名付けてはいますが、あくまでも当社のチラシ広告であり営業活動の一環です。当然のごとく費用対効果を検証しなければなりません。人々の文字離れが加速する昨今、果たしてこの手段で良いか？

読者の皆さまからの投稿欄

ストレスと戦え、子供に見せよ

親のストレスとの戦いを見る事ができた子供は充実した成長をする。親がストレスを嫌がれば子もその様に育つ。ヒトは常にイライラドキドキして成長するそれをもたらすのはストレスだ。

ストレスは悪者ではなく命と心の健全な成長の素だ。ストレスは成長のチャンスが授かった意味だから大いに苦しまされる覚悟を深くするべきだ。発散や解消ではストレスの解決にならない。それらは3分間の安楽をもたらすラッキーでしかない。解決とは妥当だと思える事なのにラッキーを幸せと錯覚する・・・。

それは大人としてすごく恥ずかしい事だと気づくべきだ。ヒトはドキドキするから大きな力を発揮できる。ドキドキの素のストレスは火事場の馬鹿力を発生させ人の成長を促す。成長とは逞しくなる事で、心の奥行が広くなり安心が広がる事でもある。馬鹿力はいくらでも高められる。

だからヒトの可能性は無限なのだ。普段から常に最大の力で今に集中し続けていればそうなる。対してダメな人は一つ突破すると休み、それを幸せと錯覚して集中の継続を放棄してしまう。

ストレスはピークに近づくに連れて厳しさを増し、ピークに達すると急速に違和が消滅する。解決とはそういう事だ。

ストレスでヒトは死なない。逆に躱（かわ）すから死に至るのだ。

社会福祉法人「飛翔福祉会」
青木正敬

「あがの家」創生プロジェクト

「会報」とは言い難いのですが・・お送りします

数年前から親しい人に「切り抜きコピーの寄せ集め帖」を勝手に送りつけています。これは、新聞・雑誌・書籍の一部を切り抜いて貼り付けたものです。これまでは、思いつくままに切り抜いた雑多な内容でした。

この会報の編集に参加し、アイディア・ヒントの提供をお願いします。

ところで、これから「あがの家・プロジェクト」の協賛員を募りますが、その申し込み書についつい「会報・情報紙を送ります」と書いてしまいました。さあ、どうする。何とかしなければ・・・。

そこで苦肉の策です。この「切り抜き帖」を「あがの家」の会報に変えてしまえば、手間も編集もこれまでと同じではないか、というまことに自分勝手なご都合主義です。テーマは「住む人の喜びと感動、地場産業の活性、地域の皆様との融和を目指して」です。興味のある方、お電話を下さい。お待ちしています。

「あがの家」創生プロジェクト

家を注文するのに、設計費はタダ（無料）で当然？

家の宣伝・広告に「注文住宅」という言葉が使われています。その意味を調べると「建築主が所有する土地に、建築主の依頼に応じて建築士や施工業者が設計・建設する住宅」と載っています。建築士に特別の注文をして、その機能・性能・デザイン・価格を決める事が基本設計業務です。（その後の完成までの監理業務もありますが）結果、一般の皆様は設計費という概念が無くなるのも当然です。昔から「タダより高いものはない」という言い伝えもあります。注文者も設計者もお互いその点をうやむやにしては混乱の基となるのでは？「あがの家」の設計に関しては、各部担当者を明確にし、その業務報酬を明記します。

建築物の良し悪しを決定する最大要因は、設計者の人間性。

「あがの家」創生プロジェクト

今更、「自然素材」を吹聴する不思議

近頃、誰もが口を揃えて、「自然素材を使った家をつくろう」と言い出しました。木造の家ならば、最初から自然素材である木がほとんどなのに、今更？

只、これまでは、木の柱や梁組が余りにも貧弱なので、そのまま露出する訳にも行かず、石膏板や他の建材で覆い隠していた。そこで、床・壁・天井を無垢の板材や塗り壁の仕様にシフト？自然素材により、家そのものと、住む人の健康性をいうならば、少なくとも家の内部は木の構造体を露出しなければ意味がありません。となると当然、木の色合い・杢目・感触が問われるし、今風の金物に頼る構造体では見苦しい？

木は自然から生まれた生物です。育つまで数十年間の時間を要します。